

SDGsへの取り組み

近年、国連の提示するSDGsが注目を浴びています。SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2030年までに達成すべき国際社会共通の目標です。
私たちも5つのゴールの課題解決の一助となるべく、社会福祉という分野の中で、皆さまとともにさまざまな社会課題を解決していきたいと考えています。

- ゴール1： 貧困をなくそう
- ゴール3： すべての人に健康と福祉を
- ゴール4： 質の高い教育をみんなに
- ゴール16： 平和と公正をすべての人に
- ゴール17： パートナーシップで目標を達成しよう



■■企業の皆さまへ■■

社会的養護を必要とする母子や高齢者、子どもたちへのご支援は寄付だけに限らず、住居として使用している施設内設備のメンテナンスや、本やおもちゃなどの物品提供、子どもたちの体験型活動のご提供など多岐にわたります。皆さまの社会貢献ポリシーに応じて柔軟に対応しますので、お気軽にお問い合わせください。

ご支援の方法

寄付で応援

共生会では、広くご寄付のお願いをしています。共生会が運営する各施設で暮らす方々、また社会に巣立とうとする子どもたちを応援してください。お振込みやクレジットカード決済、また施設ごとへのご支援も受け付けておりますので、是非ご相談ください。



物品で応援

電化製品や家具・オフィス用品、車輛などの施設設備のほか、食品や子どもたちの遊具、医療消耗品など、さまざまな形のご協力を受け付けています。金銭以外のご支援方法について、是非ご相談ください。※ウェブサイト「欲しいもののリスト」を公開しています。



遺贈寄付



大切な資産やその一部について遺贈寄付のご相談を受け付けています。遺贈寄付には公的な書類の作成などがありますので、専門機関をご紹介します。お気軽にご相談ください。

※当法人へのご寄付は、確定申告時に申告することで税の優遇を受けることができます。



⇐ 寄付についてはこちら



社会福祉法人共生会

〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木1-12-17
TEL：03-5671-1280 FAX：03-5671-1285
Mail：info@swc-kyouseikai.org ホームページ：https://www.kyouseikai.com/



社会福祉法人共生会

2024年度 年次報告書



自分の影を不思議に思っている子どもの様子



困っている人と共に生きる

令和6年度は、コロナ禍以降に進んだ社会構造の変化により、人間関係の希薄化や孤独・孤立の問題が顕在化し、社会的養護や介護福祉の現場がますます複雑化し、課題が高度化していることを改めて認識した一年でした。こうした状況の中、当法人は創設者の思いである「困っている人と共に生きる」という基本理念、そして「あなたらしさ、わたしらしさを大切に」というモットーを掲げ、皆様と共に社会課題の解決を目指してまいりました。

令和6年度は、これらの複雑化・高度化する社会課題に対応するため、個人の資質向上と組織変革の必要性を強く意識し、さまざまな取り組みを進めました。特に、人材育成（研修や交流研修等）、組織基盤の強化（ガバナンス、透明性、財務）、地域における公益的な活動、防災対策の強化に重点的に取り組みました。

これもひとえに、地域の皆様、関係機関、ボランティアの方々の多大なるご尽力とご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。また、困難な状況の中で懸命に業務に取り組んでくれた全職員にも、改めて深く感謝いたします。

今後とも、社会的養護を必要とする子どもたちや、福祉課題を抱える地域の方々に対し、温かい愛情と質の高いサービスを提供できるよう、職員一同、一層の努力を重ねてまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 福島 俊彦

戦後80年

上野地下道などで保護された戦災孤児たちが、木根川の地で生活するようになりました。数年後の昭和25年、「共生会が“経済旋風”に吹きまわれ憂慮される事態」に「児らと縄をなったり、野菜の行商で切り抜け」、子どもらの将来の希望を破壊せぬよう努力していると、地元紙が報じています。同年12月に地元の方々の募金、約14万円により住宅が建てられました。「僕らの希望の家」でした。共に生きるとは、生きる糧と心寄せ合う居場所を創ることだと、薄暗い地下道の記憶がのこる私は思います。

そのような時代から、社会は高度成長期、就職氷河期、世界同時不況、不況長期化・非正規雇用の増加、貧困率拡大と変化してきました。このような時代にあって、誰もが健康で文化的な生活を営む権利・生存権を保障されなければなりません。子どもには学習と教育の保障であり、困った人が助けてといえる社会を築くことです。

先が見えにくい不確実な社会の中で、求められるものはのでしょうか。多様な施設を持つことを「強み」として、共生会の組織としてのチカラを高め蓄積することだと考えます。まずは学びあいましょう。仕事の中で、他施設との交流の中で、気づき・考え・行動して得たことを発信して、共有しましょ。このことを支えるのが「心理的安全性」です。誰もが自分の考えていることを表明できる職場環境が「学び」を豊かにします。不安が安心に変化してチカラになります。学びは無限です。

副理事長・業務執行理事 岡 正雄



児童養護施設

希望の家

松風荘

伊豆長岡学園

江戸川つむぎの家

母子生活支援施設

ふたばホーム
ふたば学童／第二ふたば学童保育クラブ

江戸川区そよ風松島荘

中野区さつき寮

認可保育所
(夜間保育)

白鳥ふたば保育園

特別養護老人ホーム

東四つ木ほほえみの里

地域包括支援
センター

地域包括支援センター
東四つ木・立石分室

学童保育クラブ

《千代田区・アフタースクール》
さくら／さくら第二
こうじ町

《葛飾区・学童クラブ》
松上／第二松上
上小松／第二上小松
木根川



■児童養護施設「希望の家」

人材育成に力を入れた一年

2024年度もチームビルディングや会議、研修等の内容について工夫しました。
2025年度からは新たに、支援者を支援する役割である、支援者支援コーディネーターを配置することになりました。

■児童養護施設「松風荘」

特別な支援を受けた一年でした

これまでの支援者様に加え、各種団体様から例年以上の支援をいただきました。子どもたちは、多くの貴重な体験を積むことができました。皆様に支えられていることを実感し、感謝を心に刻む一年でした。

■児童養護施設「伊豆長岡学園」

職員の自主的な取り組みが活性化した一年でした

数年前より、職員の特技を活かした子ども向けの習い事が充実してきました。
バスケットボール教室、韓国語教室、空手教室、ポケモンカード大会等、職員の特技を活かし子どもたちが楽しんで参加できる取り組みが活性化してきました。

■児童養護施設「江戸川つむぎの家」

にやりほっと

朝礼では連絡事項だけでなく、子どもたちの微笑ましい様子を共有しています。例えば、幼児さんの初めての初詣。あたりから聞こえる拍手の音に反応し、2拍手どころではなく、笑顔でずっと手を叩き続ける姿にみんなでほっこりしました。



■母子生活支援施設「ふたばホーム」

■ふたば学童・第二ふたば学童保育クラブ

集（つどい）

長期休みには子どもたちと一緒に手作り昼食を行いました。また、ふたばホームに入所されている利用者をはじめ、今年度は退所された利用者の方をお招きし座談会を開催したところ、退所されてから10年近くたった方も参加され近況を教えてくださいました。

■母子生活支援施設「江戸川区そよ風松島荘」

ぴかぴか、にっこり、はばたいて

芋掘り体験、非常食試食会、助産師会の講習、浴室の設置など、新たな試みやできごとがたくさんありました。それにより利用者間の交流が日常的に増えました。また退所が決まった家庭も多く、地域での生活に向けて多くの方と連携した年でもありました。

■母子生活支援施設「中野区さつき寮」

20年間の支援を終えて

中野区より指定管理を受け20年に渡り運営してまいりましたが、残念ながら当法人での運営を終えることになりました。関係機関の皆様、一緒に仕事をしてきた仲間たち、そしてなにより出会えた利用者の方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

■認可保育園（夜間保育所）「白鳥ふたば保育園」

笑顔が広がる食育活動

一年中いろいろな物を育てていますが、南瓜、稲作にも挑戦しました。中の具材が見えるように透明鍋を使った塩ラーメン作りや親子でクッキー作りをしたり、5歳児親子と1年生親子の交流会では1番人気のカレーに大人も子どもも身も心も満たされました。

■特別養護老人ホーム「東四つ木ほほえみの里」

■地域包括支援センター 東四つ木・立石分室

新たな方針と共に邁進！

令和6年度は介護報酬が改定され、その主旨に沿った体制づくりに取り組みました。良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくりをはじめ、地域包括支援センター職員と特別養護老人ホーム職員との協働も積極的に取り組みました。

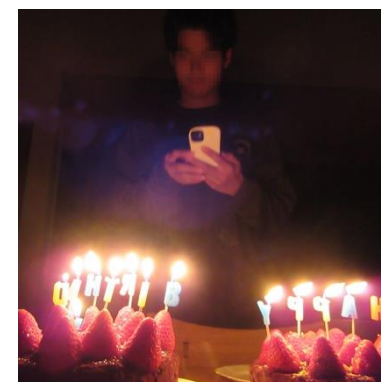
■学童保育クラブ 千代田区・葛飾区

感謝

令和6年度をもって木根川学童保育クラブ、第二上小松学童保育クラブが閉室となりました。保護者の方や地域の方、学童を利用することも達に支えてもらい、たくさんの笑顔が見られる中で運営を終了することができたことに感謝しています。



満開の桜
(白鳥ふたば保育園)



学園で祝ってもらう
最後の手作り誕生日ケーキ
(伊豆長岡学園)



クリスマス会での
ファッションショーの一コマ
(希望の家)



送別会 昼の部
(松風荘)



サンタと一緒にハイチーズ！
(東四つ木ほほえみの里)



毎年恒例の夏祭りを
今年も行いました！
(学童保育クラブ)



農業体験
(江戸川つむぎの家)



パスボム作り
(江戸川区そよ風松島荘)



天体望遠鏡で月をみました！
(ふたばホーム)



親子バスハイク
(中野区さつき寮)

児童養護施設とは

児童福祉法に基づいて、乳児を除く保護者のいない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童をお預かりして養護し、あわせて退所した子どもたちに対する相談、その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設です。



希望の家

東京都・葛飾区 定員：43名
＜ユニット2棟・グループホーム5か所＞

希望の家はたくさんの方々に支えられています。子どもを第一に考え、安心、安全が守られた家庭的で温かい環境を作れるよう職員が一致団結して努めています。地域支援として、ショートステイ・トワイライトステイ事業や家庭訪問型子育て支援事業、地域の親子向けの講座も提供しています。

■TOPICS

成人式当日、振袖やスーツを身に纏い5名の卒園生が成人の報告をしに会いに来てくれました。とても素敵でした。

たくさんの支援者の方が子どもたちを行事に招待してくださり、楽しく時間を過ごし、交流ができました（上野動物園）

小学校高学年以上の子どもたちは、夏休みにキャンプへ。様々なスポーツ、バーベキュー等を楽しみました。



松風荘

静岡県沼津市 定員：30名
＜本園・グループホーム3か所＞

1945年の開設から80年、地域の方にご支援をいただきながら歩んできた施設です。市街地を離れると海と山に囲まれ、のんびりとした環境で子どもたちは生活を送っています。子どもたちの夢を応援する「松風ドリームサポート」という取り組みにも力を入れています。

■TOPICS

16年間、松風荘で生活を送った姉妹の送別会。参加者全員、たくさんの思い出に浸っていました。

とても暑かったキャンプ。それでも、子どもたちは楽しい思い出ができました。

例年のバザーに比べ、松風荘児童の友人が多く来てくれました。未来に渡し、継続的な結びつきに期待します。つながりに期待。



伊豆長岡学園

静岡県伊豆の国市 定員：48名
＜本園5ユニット・グループホーム2か所＞

「大切にされていると実感できる場所」を理念の柱とし、「ここに来てよかった」「あなたに出会えてよかった」と子どもたちが思える施設づくりを目指しています。都立施設から共生会の一員となり18年が経過し、地域の皆様や支援者様に支えられ、より温かな施設へと成長してきました。

■TOPICS

8年ぶりに運動会を学園のグラウンドで開催することができました。とても楽しく一致団結することができました。

5年ぶりに江戸っ子杯ドッジボール大会で優勝することができました。子どもたちは感動して涙を流していました。

卒園記念旅行に卒園生4名と施設長で土肥に旅行することができました。子どもたちの思い出深い行事ができました。



江戸川つむぎの家

東京都・江戸川区 定員：24名
＜本園＞

2歳から大学生まで幅広い年齢の子どもたちが幼稚園、小学校、中学校、高校、大学に通いながら穏やかに日々楽しく生活できるように職員一同チーム支援を行っています。またショートステイ・トワイライトステイ事業を通して地域支援にも力を入れています。

■TOPICS

入進学のお祝いの書を子どもが自主的に書いてくれました。

子どもたちの標語と絵が東京都の人權ポスターに選ばれました。

毎月様々な研修をしました。



母子生活支援施設とは

児童福祉法に基づいて、18歳未満のお子さんのいる母子家庭等が生活できる施設です。母子の自立に向けて、子育てや生活のお手伝いをはじめ、退所した後もご相談に応じています。



江戸川区そよ風松島荘

東京都・江戸川区 定員：20世帯

利用者に寄り添い「大切にされている」と思われるような関りを大切にしています。建物は築55年が経ち共有部分が多い等の不便もありますが、利用者の皆さんからアイデアを頂きながら、少しでも快適に生活ができるように工夫しています。

■TOPICS

新しくお風呂ができました。それに合わせて心理サロンでバスボム作りもしました。皆さんとても喜んでくれています。

助産師さんに6回来ていただき、育児のコツや離乳食の作り方を教えていただきました。職員も一緒に勉強しました。

親子バスハイクで水族館に行きました。初めて見る大きな魚にビックリする子どももありました。



ふたばホーム

ふたば学童・第二ふたば学童保育クラブ

東京都・葛飾区

ふたばホーム：定員20世帯

ふたば学童・第二ふたば学童保育クラブ：定員80名

お母さんと子どもたちがいつも笑顔で、安全で安心した生活ができることを大切にしているふたばホーム。ふたば学童保育クラブ、第二ふたば学童保育クラブを併設しており、地域の子育て支援を担えるように努めています。

■TOPICS

小学生の子どもたちと東京ディズニーシーに行きました。初めての経験に子どもたちは目を輝かせていました。

白鳥ふたば保育園の栄養士さんとふたばホームの子ども達で手作り餃子を作りました。おいしく出来上がりました。

葛飾に郷土の文化を詰め込んだかるたがあるのをご存じですか？こども達と職員で勉強しながら熱い勝負をしています。



中野区さつき寮

東京都・中野区 定員：19世帯

※2024年度末で当法人としての運営終了

家族全員が地域の中で安心して笑顔で暮らせるよう、それぞれの思いにスタッフ全員が寄り添ってきました。また、地域の子育て世帯へ向けて、ショートステイ事業や電話相談、ひとり親家庭向けのイベント開催等、多岐にわたった支援を展開しました。

■TOPICS

乳幼児工作でプラ板キーホルダーを作りました。完成したものは母の日にプレゼントしました。

夏休み親子工作として、モザイクタイルで装飾したランプを作りました。

小学生以上の子ども達と昭和記念公園へ行き、バーベキューをしました。





子どもからお年寄りまで、地域の皆様と共に生きる地域密着の運営を日々行っています。すべての利用者の方のケアニーズに応えられるよう、専門性と質の高いサービスを提供出来るように心がけております。

特別養護老人ホーム 「東四つ木ほほえみの里」 地域包括支援センター東四つ木・立石分室

特別養護老人ホーム：123床
ショートステイ：7床

特別養護老人ホームとは、常時介護を必要とし、在宅での生活が困難な高齢者に対して、生活全般の介護を提供する施設です。平成10年開所以来、利用者が安心して生活できるように、ふれあいを大切にしています。

地域包括支援センター東四つ木・立石分室は、平成18年より葛飾区から事業を委託されています。通称名「高齢者総合相談センター」として、より区民に分かりやすく身近な相談窓口として活動しています。

■TOPICS

ひなまつり祝い膳：幼かった頃の思い出と共にお祝い膳をいただきました。

お花見：今年もお元気な姿で満開の桜とお一人ずつ記念撮影を行いました。

地域包括支援センターでは、認知症の普及啓発に取り組み、地域で見守る認知症サポーターを581名養成しました。



認可保育園（夜間保育所）「白鳥ふたば保育園」

東京都・葛飾区 定員：36名

0歳児から5歳児まで1クラス6名ずつの小さな保育園です。3歳から5歳児は異年齢保育を実施し、兄弟姉妹のような子ども同士の関りを大切にしています。夜間保育を希望するお子さんには、美味しい夕食を提供します。

■TOPICS

電車が大好きな子ども達。「バイバ〜イ」と手を振る可愛い後ろ姿に見守る大人は笑顔になります。



小さな畑で育てた数種類のじゃが芋の収穫をしました。大好きなフライドポテトにしてもらい味比べをしました。



公園を借りて消防署の方の指導を受けました。沢山の機能がついている消防自動車の説明を、目を輝かせながら聞いていました。



学童保育クラブ

(葛飾) 松上学童保育クラブ70名 第二松上学童保育クラブ70名
上小松学童保育クラブ55名 第二上小松学童保育クラブ45名 (※1)
木根川学童保育クラブ60名 (※1) ※1：2024年度末で閉室
(千代田) アフタースクールさくら65名 アフタースクールさくら第二45名
アフタースクールこうじ町50名

葛飾区に5学童、千代田区は3学童と放課後子どもプラン（放課後子ども教室）の事業を受託・運営しています。放課後の子どもたちの居場所として安全・安心に過ごすことのできる環境を提供しています。小学校の校庭などを使い、自由に遊ぶことができ、多彩な行事も企画しています。

■TOPICS

今年も遠足に行ってきました。大きな公園でボールや遊具を使い思いきりあそぶことができました！



学校の広い校庭で水遊びをしました。水をかけあいながら笑顔あふれる1日となりました。



家族へ日頃の感謝を込めてプレゼントを作りました。



2024年度決算書類

法人単位資金収支計算書（抜粋版）
（自）令和6年4月1日（至）令和7年3月31日

(単位：円)					
勘 定 科 目			予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動 による収支	収入				
		事業活動収入計(1)	3,150,592,852	3,172,860,691	△22,267,839
	支出				
		事業活動支出計(2)	2,976,096,318	2,924,646,311	51,450,007
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			174,496,534	248,214,380	△73,717,846
施設整備等 による収支	収入				
		施設整備等収入計(4)	25,391,273	29,634,773	△4,243,500
	支出				
		施設整備等支出計(5)	73,949,093	73,763,183	185,910
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			△48,557,820	△44,128,410	△4,429,410
その他の活動 による収支	収入				
		その他の活動収入計(7)	39,570,534	12,652,064	26,918,470
	支出				
		その他の活動支出計(8)	171,148,425	162,365,485	8,782,940
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			△131,577,891	△149,713,421	18,135,530
予備費支出(10)			3,402,222 0	—	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			△9,041,399	54,372,549	△63,413,948
前期末支払資金残高(12)			940,940,108	940,940,108	0
当期末支払資金残高(11)+(12)			931,898,709	995,312,657	△63,413,948

法人単位貸借対照表（抜粋版）
令和7年3月31日現在

(単位：円)			
資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	1,138,334,471	1,067,675,569	70,658,902
固定資産	3,728,595,372	3,651,683,851	76,911,521
資産の部合計	4,866,929,843	4,719,359,420	147,570,423
負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動負債	224,574,700	205,331,614	19,243,086
固定負債	115,520,854	111,773,368	3,747,486
負債の部合計	340,095,554	317,104,982	22,990,572
純 資 産 の 部			
基本金	619,777,986	619,777,986	0
国庫補助金等特別積立金	1,244,089,311	1,285,920,720	△41,831,409
その他の積立金	929,097,407	796,197,407	132,900,000
次期繰越活動増減差額	1,733,869,585	1,700,358,325	33,511,260
(うち当期活動増減差額)	166,411,260	175,477,704	△9,066,444
純資産の部合計	4,526,834,289	4,402,254,438	124,579,851
負債及び純資産の部合計	4,866,929,843	4,719,359,420	147,570,423

法人単位事業活動計算書（抜粋版）
（自）令和6年4月1日（至）令和7年3月31日

				(単位：円)		
勘 定 科 目				当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動 増減の部	収益					
		サービス活動収益計(1)	3,150,749,340	2,940,702,272	210,047,068	
	費用					
		サービス活動費用計(2)	2,978,722,067	2,769,707,413	209,014,654	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		172,027,273	170,994,859	1,032,414		
サービス活動 外増減の部	収益					
		サービス活動外収益計(4)	22,111,351	25,982,766	△3,871,415	
	費用					
		サービス活動外費用計(5)	13,769,021	13,642,541	126,480	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		8,342,330	12,340,225	△3,997,895		
経常増減差額(7)=(3)+(6)			180,369,603	183,335,084	△2,965,481	
特別増減の部	収益					
		特別収益計(8)	30,350,274	4,339,522	26,010,752	
	費用					
		特別費用計(9)	44,308,617	12,196,902	32,111,715	
特別増減差額(10)=(8)-(9)		△13,958,343	△7,857,380	△6,100,963		
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			166,411,260	175,477,704	△9,066,444	
法人税、住民税及び事業税(12)			0	0	0	
法人税等調整額(13)			0	0	0	
当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)			166,411,260	175,477,704	△9,066,444	
繰越活動増減 差額の部	前期繰越活動増減差額(15)		1,700,358,325	1,733,580,229	△33,221,904	
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)		1,866,769,585	1,909,057,933	△42,288,348	
	基本金取崩額(17)		0	0	0	
	その他の積立金取崩額(18)		3,000,000	5,000,000	△2,000,000	
	その他の積立金積立額(19)		135,900,000	213,699,608	△77,799,608	
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)		1,733,869,585	1,700,358,325	33,511,260	

本決算書類は「法人単位」のものであり、抜粋版です。
詳細は、各ウェブサイトをご覧ください。

